



小田小だより

平成25年 7月号

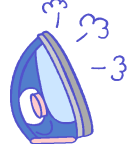
〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校

母と月曜日の朝 ~もうすぐやってくる夏休みに思いを寄せて~

学校長 木村 昭雄



両手にいっぱい荷物を持って子どもたちが登校してきます・・・毎週、月曜日の朝の光景です。特に夏は水着も加わって一段と荷物が多くなります。中には大事そうにしっかり抱えながら登校する児童もいます。そのような洗濯された体操服や運動靴などは、見ていてとても気持ちがいいものです。各家庭でのお母様方のご苦労が忍ばれます。



私も小学生の頃、母が日曜日の夜などは、月曜日に持って行く給食当番の白衣や三角巾、掃除用のエプロン、ハンカチやズボンにアイロンをかけ、丁寧にたたんで用意してくれていた姿を思い出します。アイロンがけをしている母の横で、それを眺めながら今日の出来事や明日の予定などを話すのがとても楽しかった思い出があります。

母は、アイロンをかける手を休めることなく話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりしました。そんな何気ないひと時の何気ない会話を、今になっても鮮やかに思い出します。こうして日曜日の夜に、私は母からさまざまなことを学んだように思います。ズック靴などは、母が洗ってくれたこともありましたが、3年生くらいになるとよく洗わされたものです。「自分の物くらいは自分で洗いなさい」と言われ、家の近くにあるこんこんと水が湧き出る小さな池で、遊びたいのも我慢して、たわしでごしごしこすっていたものです。今まで黒っぽくくすんでいたズック靴が、だんだんと白っぽくなっていくのが面白く感じたものでした。洗い終えたズック靴を家に持ち帰ると、母が「白くなった！白くなった！」と大きめに誉めてくれるので、るんるん気分でした。高学年になる頃には「昭雄も、たわしでこする力が随分付いてきた！」と誉めてくれるものだから、ズック靴洗いがますます好きになりました。

我が家は、豊かではなかったため美しい服装とまではいきませんでした。母はいつも「さっぱりした服装をきなさい」と口癖のように言っていました。洗濯機が無い我が家では、たらいにお風呂の残り湯を入れ、洗濯板と固形石けんを使って洗っていました。ズボンやシャツ、靴下を額に汗してこすり洗いともみ洗いを繰り返している母の姿を、今でも懐かしく思い出します。洗剤と太陽のおいにする白いトレパン、白いシャツ、白い靴下に白いハンカチ、折り目のス～と入ったズボン。これが月曜日の私の服装と持ち物でした。それは中学生になっても、高校生になっても続きました。特に夏などは、朝日にまぶしく輝く制服は、白さのためだけではなかったように思います。母の思いが、まぶしさを一層強くしていたような気がしてなりません。私は月曜日、この母の思いに満たされた白い品々を身につけて、登校することに幸せを感じたものでした。

さあ、いよいよ7月です。夏休みが始まる7月です。白がとてもよく似合う夏休みです。特に、真っ黒に日焼けした笑顔に、きらりと光る白い歯は最高です！

保護者の皆様と地域の皆様の温かい思いで満たされた、子どもたちのあふれんばかりのまぶしい笑顔の夏休みとなりますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



